

**第6期（2008年度）SSCS (Small Schools for Civil Society)  
インターンシップ奨励プログラム  
活動カリキュラム(2008年6月～2009年6月)**

**■ 団 体 概 要**

記入日2008年2月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド (略称：ファンド)
代表者・連絡担当者	運営委員長 山岡 義典 連絡担当者 浜本 由里子
団体住所	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル267-B 電話：03-3510-1221 FAX：03-3510-1222 E-mail：sscs2@civiltfund.org (SSCS応募用のみ) URL：http://www.civiltfund.org 連絡のつく曜日・時間帯：月～金曜日 10～18時
設立時期	2002年4月 設立

**団体の活動目的と活動内容**

市民社会創造ファンド (Civil Society Initiative Fund) は、個人・企業・団体からの多様な寄付や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。  
新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展する形で設立され、市民活動助成プログラムやNPOでの若者のインターンシッププログラム (SSCS) などの企画・運営を行っています。

**■活 動 カ リ キ ュ ラ ム**

活動名	「インターンが育てるインターンシップ奨励プログラム」の運営
主な活動場所	上記事務所
最寄駅と駅からの距離	東西線大手町駅B3番出口よりビルに直結、JR東京駅丸の内北口から徒歩約7分
スケジュール	<活 動 な ど> (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります)
<b>2008年6月7, 8日</b>	事前研修会・入校式 (6期) インターン開始、オリエンテーション(ファンドの説明)
【年間を通して行うもの】 <<前期>>	[6期インターン・受け入れ団体との連絡調整業務(随時)] [6期インターンの活動報告取りまとめと活動奨励金等の会計処理(毎月)] [SSCS運営委員会への参加と議事録作成(年2～3回)]
<b>2008年11月頃</b> <<後期>>	5期インターン修了報告書の編集・出版(報告書作成・5期生有志編集チームとの協働作業の予定) 中間報告会の企画・準備・当日運営
<b>2009年6月頃</b>	7期新規受け入れ団体訪問インタビュー調査(2～3団体) 7期インターンシップ・プログラムの企画・応募要項作成(1月頃～) 7期インターン公募業務(1月頃～) 9ヵ月修了インターンの居る場合には、3月に修了報告会開催の可能性が有ります。 7期応募説明会の企画・準備・当日の運営
	修了報告会(6期)／事前研修会・入校式(7期)の企画・準備・当日運営
	* 上記以外にも、興味・関心・活動時間数に応じて、ファンドの別プログラムにも関わることが出来ます。また、自主的なインターン学習会やOB・OGとの共催行事などの企画・運営も出来ます。 * また活動期間中は、毎月(月末か月初め)1回、メンターと会合を持ち、活動の振り返り、予定/目標の検討・確認、プログラムやファンドへの提案を行うことが出来ます。
総括的な受け入れ指導者名 (スーパーバイザー)	山岡 義典
日常的な受け入れ担当者名 (メンター)	浜本 由里子

## ■ インターンに期待すること

活動名のとおり、ファンドで活動するインターンには、SSCSプログラムに参加するすべてのインターンや受け入れ団体と一緒にプログラムを育てていただきたいと思います。これを基本とし、

- ・ 前もって全体を把握し、計画的にプログラム運営を実施し、
- ・ 多様な人・団体との連絡・調整をタイムリーに行い、
- ・ 報告書の編集や、報告会などの企画・運営に興味を持ち、
- ・ NPOの資金源への一定の関心を 期待します。

\* 活動の実践を通して、全体を見通しじっくり考えかつスピーディに活動する力をつけて欲しいと思います。

## ■ 活動日・活動時間についての希望

1年間活動できる方を希望します。

活動期間中は、週1回程度のファンド事務所での活動を基本としますが、毎月、各インターンの活動報告提出締切日(毎月15日)に合わせて、提出された報告書をまとめ、奨励金を支払う会計処理など一連の作業を行いますので、その時期には数日まとめて活動ができるといいでしょう(丸1日活動する必要はありません)。

また、中間報告会(11月頃)や修了報告書作成、修了報告会(6月)の前はかなり集中して活動に取り組めることが、学びという意味からも望ましいでしょう。

## ■ 団体の活動を理解するために役立つと思われる資料や情報

市民社会創造ファンドのWEBサイト

『NPO基礎講座<新版>』(山岡義典編著:ぎょうせい)

『NPOの実践講座<新版>』(山岡義典・雨宮孝子編著:ぎょうせい)

『日本のNPO/2001』(中村陽一・日本NPOセンター編:日本評論社)

『SSCSインターン修了報告書1期・2期・3期・4期』(編集・製作ファンドインターン:市民社会創造ファンド)

## ■ その他

カリキュラムの目的は、インターン自身の持つ、すぐれた若者ならではの感覚で、みずからが参加者としての立場を生かし、他の当事者(インターン)との情報交換を図るなどしながら、このプログラム(SSCS)の各種の企画をじっくり検討したり、行事の準備や当日のコーディネートなどを実施していただくことです。インターンシップ・プログラム全体を、1人のインターンとして、また事務局として見つめながらの活動は他では味わえない独自のユニークな経験になるでしょう。また、プログラムの推進や内容の向上のための活動を通して、NPOで仕事をするこの意味について体験的に理解していただきたいと思います。

プログラム(SSCS)の実施・運営を主な業務としますが、所属している学校とインターンシップ活動との兼ね合いなどから時間の調整が難しい場面がでてくるとはありますが、上手に時間をやりくりして、市民社会創造ファンドが実施する下記の助成プログラムなどにも触れる機会をつくり、NPOにおける資金支援の方法や課題についても学んでいただきたいと思います。

ファンドで実施している助成プログラムと助成関連プログラム

- ・ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援プログラム」
- ・中央ろうきん助成プログラム「個性が耀く”ひと・まち・くらし”づくり」
- ・「ダイワSRIファンド」助成プログラム
- ・Panasonic NPOサポートファンド
- ・花王 コミュニティミュージアム・プログラム ほか

また、他の受け入れ団体で活動する各インターンの活動現場訪問や企画への参加、他のインターンシップ・プログラム関連の企画への積極的な参加など、インターン自らが創り出す学びも応援します！

### ■ 先輩からのメッセージ

情報と人のつながり、問題意識の交差という点で、市民社会創造ファンドはネットワーク型の市民セクターにおける主要な“ノード”（結び目）の1つです。  
SSCS（市民社会の小さな学校）となっている、広範な分野から山岡さんが選りすぐった先進的NPOと、たった1年間で接点ができること1つとっても大きな財産となります。さらに、研修補助費を利用したNPO全国フォーラムへの参加、助成担当者交流会、ろうきんさんや経済広報センターさんのフォーラムなど、多くの学びと出会いの機会を与えていただきました。とりわけファンドのスタッフとの対話から学んだことは多く、そのつながりは大きな財産です。  
中間報告会、修了報告会はインターン同士で自然と報告のできを意識しあい、刺激しあって、大学の授業よりも切磋琢磨の機会となります。交流会も楽しい。プログラムに予定されていない交流もインターン次第で、私たちの期は忘年会、新年会、合宿といろいろやりました。  
市民セクター全般のあり方すでに興味があるという方には、絶対にお勧めのプログラムです。  
第1期インターン 富永 さとる（立教大学大学院修士1年・参加当時）

### ■ 先輩からのメッセージ

私にとっての学びは「想いを実現させる力」「想像力」「自己認識力」  
オーダーメイドな学びを1年間。これはチャンスです！  
NPOの第一線で活躍されている方々、個性的で面白い仲間に出会える場所だと思います。  
人生「迷ったらGO!!!」  
あなたとお逢いして面白いことを一緒にできることを楽しみにしています。  
第2期インターン 斎藤 ちひろ（武蔵野美術大学4年・参加当時）

### ■ 先輩からのメッセージ

1つの感動をつくり上げるためには、何百もの積み重ねが欠かせない。  
SSCSインターンシップの1年間という長期の活動を通じてそう気づきました。  
しかし、何百もの積み重ねの中には、何千もの出会い、発見、喜び、時には辛さ、重圧、反省など、様々な物語がぎっしり詰まっています。  
受動的な生活では得ることができない、かけがえのないこの経験を、ぜひ、この小さな学校で体験し、自分の手で実践してください。  
第4期インターン 海沼 武志（立教大学4年・参加当時）

### ■ 先輩からのメッセージ

市民社会創造ファンドでのインターンシップはとても贅沢な学びだと思います。  
市民社会創造ファンドが行っている様々な助成プログラムへ同行し、助成をする・受ける側に何が求められているかを学んだり、SSCSの事務局として多分野のNPOで活動している同期インターン達を外側から見て、1年間の中での成長を見ることもできます。  
多くを学べる代わりに、その学びをまとめて自分の中に吸収し、アウトプットをするのことは大変なことではありますが、多岐に渡る学びの中で、多くの作業をこなしつつも、自分の学びたい学びを探していきましょう。  
第5期インターン 吉野 高章（法政大学3年・参加当時）

### ■ 先輩からのメッセージ

1つ1つ超えてゆく・・・それがこのインターンシップを経て、1番強く感じていることです。  
何もわからないところからスタートして、少しずつ何かを獲得してゆく過程は、自分を見つめる作業であったり、人との関係を築いてゆく作業であったり、時に切羽詰った状況で自分の最大限の力でものごとを把握し、解決する糸口を探る作業であったりすると思います。  
学び、成長してゆくということ、それは新しいものごとに挑戦し、失敗し、そこから得る何かを新しい何かに繋げて、繋がりを大きくしてゆくこと。  
受難を受け入れ、痛みを抱いて、新しい未来を切り開くこと。  
インターンで得られるかけがえのない何かを、是非みなさんにも味わっていただければと思います。  
第5期インターン 高橋 俊江（法政大学4年・参加当時）